

# 令和元年度第4回滋賀県総合教育会議の結果について

## 会議次第

- (1) 日時 令和2年(2020年)1月16日(木)13:30~15:30
- (2) 出席者 知事、教育長、教育委員：土井委員、藤田委員、野村委員  
ゲスト：湖南市教育委員会 学校教育課長 松浦加代子氏  
竜王町立竜王小学校長 清水一範氏
- (3) 議題 学校における働き方改革について



守山高校美術部と書道部の皆さんに、会議の横断幕とパネルを制作していただきました。

## 会議の概要

学校現場の現状についての映像を視聴した後、事務局から、「働き方改革に関する意識調査」の結果に基づき、本県における取組と課題について説明を行った。その後、松浦氏・清水氏からそれぞれの市町・学校における取組事例について説明があり、意見交換を行った。

### <主な意見>

#### 1. 学校の業務改善について

- ・学校としても改善すべきところは改善した上で、必要な予算について国に対して声を上げていくべきである。
- ・研修を通じて、教職員が主体的に業務改善を図れるような意識改革を継続的に行っていくことが大切である。
- ・学校の業務を標準化することで時間を生み出すことができ、本来の教育活動のために必要な時間に少しでも活用できるようになる。
- ・教育委員会への報告業務や教育委員会からの資料配布は、学校の負担にならないように、より効率的に行えるように改善していく必要がある。
- ・一人ひとりの教職員が、目の前の子どもたちにもっと目と心を向けてもらえるように業務改善に取り組んでいく。そのためのハード面や体制面をしっかりと整えていくことができるようにサポートしていきたい。

#### 2. 地域力を生かす取組について

- ・学校への依頼はコストはかからないとの誤解があるのではないかと。教育の専門家である教員が行うべき業務と、教員以外(スクール・サポート・スタッフやボランティア)にお願いする業務を精選しないと、働き方改革の取組はうまくいかない。
- ・学校行事やPTA活動について、市町のスポーツ推進員や地域のスポーツクラブなど、地域力を活用していくことが必要ではないかと。
- ・男女共同参画など社会の在り方が変化する中で、持続的にボランティアの方を確保できるように施策全体の中で考えていく必要がある。
- ・教育に携わりたいリタイア世代を活用するために、地域ごとに人材バンクのようなものがあれば、学校のニーズとマッチングできる可能性がある。
- ・ボランティアコーディネーターの活用など各地域での優良な取組事例を広めていくとよい。